

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画 ステップ1 振り返り報告書

～ 応援メッセージ ～

<令和元年度～令和2年度分>



第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会

令和3年12月

< 目 次 >

1	はじめに	2
2	計画の振り返りの考え方	2
3	振り返りの対象と手順	2
4	ステップ1の総括	3
5	参考資料（ステップ1 振り返りシート）	4
6	委員名簿	10

1 はじめに

この報告書は、第4次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下、「第4次活動計画」という。）の94頁に記載されている「計画の推進と振り返り」を行うために、第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会（以下、「推進委員会」という。）を設置し、計画の取り組み状況を定期的に確認し、振り返りを行った内容をご報告するものです。

今回の報告書は、計画初年度である令和元年度から令和2年度までの2年間の取り組み状況の振り返りとしています。この報告書が地域活動当事者や関係する皆様の地域福祉活動推進の一助となれば幸いです。

また、令和2年1月にWHOが新型コロナウイルスを確認してから、緊急事態宣言等を受け、外出自粛によるコミュニケーションの減少等により、これまで対面を中心に行われてきた数々の地域活動が大きな打撃を受けました。その反面、SNSの利用促進やオンラインによる会議や動画配信等の新たな取り組みは既存の課題解決を加速する側面もありました。これらのコロナ禍における新たな取り組みは、課題を解決するだけでなく、これからの未来社会に向けて、新たな仕組みを創り出すことになりました。

2 計画の振り返りの考え方

- 本推進委員会の目的は、「武蔵野市の地域福祉活動を推進すること」にあります。したがって、単に目標の達成ではなく、地域の福祉活動及び地域の活性化が大切であると考えます。
- そこで、振り返りもこの目標を達成する一つのツールと考え、評価手法や評価技術よりも地域の活性化につながることに重きを置いています。
- また、この振り返りを継続し積み重ねていくことによって、事業の対象地域の状況や事業進展の時系列変化が「見える化」できると判断しています。その変化の状況や背景をさらに分析していくことで、今後のステップアップを考える材料の一つとしていくことも重要な「ねらい」となります。
- 地域の活性化は、地域活動当事者や関係者の活力や自信が重要であり、この振り返りが皆様にとっての活力・自信につながる応援メッセージとなることを目指しています。

3 振り返りの対象と手順

- この振り返りは、第4次活動計画第4章「全地域で6年間に取り組むこと」を対象としています。この第4章のうちの「基本目標」については、2年間で1ステップとして進捗状況を確認し振り返りを行っていきます。また、第4章のうちの「重点的取り組み」については、本推進委員会において取り組み状況や内容を事務局と共有しつつ意見交換を行いますが、総合的な進捗状況の確認と振り返りは、本計画期間である6年間で踏まえながら、次期計画の改定時期を目途に行っていきます。
- また、第3章「身近な地域で6年間に取り組むこと（地域社協別地域福祉活動計画）」については、第4次活動計画の94頁に「住民のみなさんが各地域の実情に応じて自主的に策定したものであることから、推進委員会による振り返りの対象とはせず、各地域において定期的に振り返りや見直しが行われることを想定しています。」と記載されていることから、各地域で振り返りや見直しを行っていただき、推進委員会による振り返りは行わないこととしました。

4 ステップ1の総括

- ★ 本計画のステップ1の実施状況を見ると、様々な議論を積み重ね、そして認識を深め共有化することが進んでいることが見えます。
- ★ これは、今後、地域福祉活動が発展していくための第一歩として大切なことであり、これが進んでいることは今後に期待が持てます。

推進委員会からの応援メッセージ

行動につなげる流れ

- ◎ あまり効果(結果)に目を奪われず、「数多く実践する気持ち」で進めていきましょう。
- ◎ 「どんな小さなことでも行動につなげる流れ」を生み出すことを意識すると、話し合いも高まっていくと思います。

広報のさらなる活用

- ◎ 掲示板はよく見られていますので、内容をしっかり作り、上手に活用していきましょう。
- ◎ 「情報をどのように表現し伝えるか」を検討することも重要ですが、加えて「日頃どのようなツールから情報を入手しているか」という受け取り側のニーズを押さえることも忘れてはならないことが大事です。

資産(つながりや知恵や経験)をさらに活かす

- ◎ 持っている資産(つながりや知恵や経験)を、総合的・有機的に活用していくことが、目標達成へのスピードアップ、効率化、質的改善につながっていきます。
- ◎ 既存の「つながり」をどのように活用し、発展させていくかという視点が大切です。「これはつながらないだろう」というものを、「敢えてつないでみる」という発想の転換が鍵です。
- ◎ 新しい力や協力を得るためには、「新しいやり方や考え方を取り入れながら、関心のある人を活かしていく」という発想が大切です。

5 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画 ステップ1 振り返りシート

【参考資料】

基本理念 「みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして」

基本目標1 地域をささえる人づくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価 (4・3・2・1)	評価理由、課題事項、今後の進め方等	推進委員会からの応援メッセージ（目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等）
(1) 地域の福祉情報・ボランティア情報を分かりやすく発信する	① チラシ・広報紙などの内容を改善しましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	誰が見ても「わかりやすい表現」で記載します	・地域社協等のボランティア団体では、これまでの小さい文字で読みにくかった広報紙を文字のサイズを大きくすることにした団体があるなど、わかりやすい表現を意識して広報紙等の作成に取り組んでいる団体が多くある。 ・市民社協では、広報紙「ふれあい」を市民により身近な広報紙にするための検討を行い、広報紙の企画から校正まで関わる広報委員を新たに公募した。	4	【評価理由】 ・多くの団体がわかりやすい表現で工夫した広報を作成しており、団体によっては、大きさや紙面を工夫しているところもあるため。 ・広報紙「ふれあい」の内容や発行体制を含めた大幅なリニューアルに着手したため。 【今後の進め方】 ・広報誌「ふれあい」は、令和3年4月号から新広報委員による広報紙づくりを行い、企画や表現の内容なども検討を進めていく。	○ 令和3年度から広報紙「ふれあい」が新しくなり、とても読みやすくなりました。 ○ 「ふれあい」の新広報委員の知識や経験等を、地域社協のニュース編集の向上につなげられると良いと思います。 ○ 紙面の都合上「ふれあい」に掲載できなかった記事は、SNS (Facebook、Twitter、YouTube、TikTok) での広報に再利用することも有効だと思えます。
	② 対象を明確にした情報提供を行いましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	情報を届けたい人を想定した広報手段を検討します	・地域社協では、令和元年度に代表者連絡会の中で、地域社協の広報手段について検討を行った。 ・市民社協では広報媒体毎に想定される主なターゲットを設定した。これまで情報発信の中核であった広報紙を読む機会が少ないと思われる若年層に向け、ホームページの情報をできるだけ最新のものとできるように、更新頻度を定期更新から随時更新に変更している。また、SNS (Facebook・Twitter) による情報発信・更新の頻度を更に増やしている。	3	【評価理由】 ・地域社協については、代表者連絡会での検討の結果、紙媒体と並行してWEB媒体に取り組むことになったが、対象を明確にする所までは至っていないため。 ・媒体毎に想定される主なターゲットを設定し、多様な媒体でのタイムリーな情報提供を行う体制に移行したため。 【課題事項】 ・新聞購読世帯の減少によって広報紙配布の効果が以前よりも少なくなっている。 ・SNSのフォロワーがまだ少なく、情報発信の効果が少ない。 【今後の進め方】 ・広報紙配布方法の検討を進めていく。 ・SNSのフォロワーを増やせるよう、PRを積極的に進めていく。	○ 若い人を含めて新聞を取っている人は少なくなっています。良いものを作っても読まれなければ勿体ないため、市報と一緒に配布する等の様々な方法があると思えますので、より多くの住民に届くような配布方法を早急に検討していくと良いと思えます。【(4)②再掲】 ○ 掲示板は良く見られていますので、自宅前への掲示を呼び掛けてみてはいかがでしょうか。【(5)③再掲】 ○ チラシを見ている人は物凄く細かく見ているので内容が大事です。魅力ある内容をどのように発信していくか検討していくと良いと思えます。【(5)③再掲】 ○ コロナの関係で新たに社協につながった方への情報提供のフォローをすることで、新たなつながりが広まっていくと良いと思えます。 ○ 広報内容や広報媒体によって、対象とする読者を基本に置き、情報を届けたい読者がどのような手段で情報を得たいと思っているかを検討していくことで広報効果が期待できるのではないのでしょうか。新聞折込、全戸配布、掲示板、HP、SNS等の様々な広報手段が考えられます。
	③ WEB媒体による情報提供を行いましょう	ボランティア団体 市民社協 など	より多くの地域団体やボランティア団体においてWEB媒体での情報発信が行われるよう検討・働きかけを行います	・市民社協の主催で、令和2年12月に地域社協運営委員を対象とした「ボランティア団体のSNSの取り組みについての実践例」を学ぶ研修会を行った。(参加者33名)	4	【評価理由】 ・地域社協運営委員を対象とする研修会の開催や投稿のルールなどを市民社協で定めたことにより、最初は取り組みには抵抗感があった人(地域)も、検討したり、WEB媒体に関心をもつようになったため。	○ SNSの研修会で学んだ後に「教える場を作る」ことによって、仲間をさらに増やしていくことができるのではないのでしょうか。今の段階では、SNSの発信も大切ですが、SNSを見ることが出来る人を増やしていくことが大切です。【(3)②再掲】

基本目標 1 地域をささえる人づくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価 (4・3・2・1)	評価理由、課題事項、今後の進め方等	推進委員会からの応援メッセージ（目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等）
(2) より多くの人々が地域の福祉に関心を持つ機会を増やす	① 地域活動やボランティア活動に対する理解を広め、様々な形で地域に出会うきっかけをつくりましょう	地域社協 ボランティア団体 など	地域団体やボランティア団体の現在の活動を誰が見てもわかりやすいものになっているか振り返り、可視化します	・地域社協では、独自のパンフレットを作成した地域社協が9地域（予定も含む）ある。その中で地域社協の位置づけや市民社協との関係、活動内容等を分かりやすく記載しているところもある。 ・活動中のPRとしては、地域社協名の入ったベストやポロシャツ等を着用したり、活動中に地域社協名の掲載されたのぼり旗を設置するようにしている地域社協もある。	2	【 評価理由 】 ・地域社協の事業計画（報告）、予算（決算）を広報紙に掲載したり、パンフレットやベストの着用などのPRに工夫している地域社協もあるが、他団体との違いや団体そのものを分かりやすく伝える部分に苦労している地域社協もあり、分かりやすく可視化する所までは至っていないため。	○ 各団体として、個別のパンフレットやユニフォームづくりなど、独自の工夫をされていて良いと思います。また、個別団体のPRとは別に、地域社協の活動目的を明確に発信できると住民の理解が一層広がると思います。
	② 子どもが地域福祉に出会う機会を増やしましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	地域団体やボランティア団体の行うイベント（事業）および小中学校における福祉学習事業やこころのバリアフリー啓発事業など学校で福祉を学ぶ機会を継続します	・市民社協では市内小中学校や事業所等の従業員を対象とした福祉学習事業やこころのバリアフリー啓発事業をオンラインを含めて実施した。	3	【 評価理由 】 ・コロナ禍で学習プログラム自体を実施できなかった学校もあったが、一部の学校ではオンラインによりプログラムを実施することができたため。	○ 市民社協で取り組んでいる学校での福祉学習事業では、地域社協の皆さんが参加し活動することで、地域社協と学校との関係や子どもさんとの距離感の短縮につながるのではないのでしょうか。
(3) 地域活動の担い手を増やす	① 「若い人」の参加を望む地域団体・ボランティア団体は、若い人の活動への定着を目指しましょう	地域社協 ボランティア団体 など	「若い人」の定義（年齢・年代・属性など）を明確にします	・地域社協については、令和2年度に各地域の年代別人口の表を配布し、各地域社協で若い人の定義を考える場を設けて話し合った。 その結果、年齢よりも「新しい人」の参加を望む地域が多く、新しい人を探す方法を検討した地域が多くなった。	4	【 評価理由 】 ・各地域社協で求めている「若い人」の定義を話し合うことができたため。 【今後の進め方】 ・求めている人を話し合う中で意見の出た「転入者」「私立の小中学校に子どもを通わせている人」「PTA役員の経験者」「他団体に所属していない人」などアプローチ方法を検討していく。	○ 計画策定当初は「若い人」を想定していましたが、その後検討した結果「新しい人」を求めていることが共有できたことは議論が深まった証だと思えます。これから先に向けては、「新しい人」が「何に関心があって」「何を求めているのか」を探っていくと良いと思います。
	② 働いている人が参加しやすい活動方法を目指しましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	SNS等でも活動に関する情報を取得しやすくなります	・市民社協ではSNSでの情報発信を増やすとともに、ホームページの更新頻度を随時更新に変更した。また、SNSの記事にホームページ等のリンクを張ることで、内容の詳細を確認できるようにしている。 ・また、地域社協はSNS媒体への取り組みや若い人の参加について検討した。その際に、オンラインでの参加や会議を休日に設定するなどのアイデアが出た。実際に役員会を土曜日に開催することに変更した地域社協もある。	3	【 評価理由 】 ・更新頻度を上げたことと、様々な媒体の情報が連動するしくみが出来たため。 ・SNS媒体を進めることで、好きな時間に地域社協の情報を入手しやすい環境は整ったが、働いている人が参加しやすい取り組みにまでは至っていない。 【 課題事項 】 ・SNS自体の認知度を上げる必要がある。 【 今後の進め方 】 ・SNSのフォロワーを増やす。	○ 「どのように情報提供するか」を検討することも重要ですが、「どうやって入手したいと思っているか」という受け取り側のニーズを押さえることが大切です。 ○ 「YouTube」「LINE」「LINEのプッシュ型」の他に「若い人」向けに「TikTok」等を活用し、「全方位型」と「集中型」を、用途に応じて組み合わせて使ってみると効果的です。【(5)③再掲】 ○ 地域社協でTwitterに触れた方が確実に増えていますので、そこで学んだことを教える場があれば確実に仲間を増やすのではないのでしょうか。発信となるとなかなかハードルが高いかもしれませんが、とにかくSNS等を見ることができると増やすことで情報伝達のスピードが変わるのではないのでしょうか。【(1)③再掲】

基本目標 1 地域をささえる人づくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ 1	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価 (4・3・2・1)	評価理由、課題事項、今後の進め方等	推進委員会からの応援メッセージ（目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等）
(3) 地域活動の担い手を増やす	③ 担い手を増やすために、これまでの活動内容や活動方法を見直しましょう	地域社協 ボランティア団体 など	参加してほしい対象者に関する共通認識をもちます	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は、地域社協全体で若年層の参加について検討した。その際に各地域社協内で、どのような人に参加してほしいか話し合った。その中で、「転入者」「私立の小中学校に子どもを通わせている人」「PTA役員の経験者」「他団体に所属していない人」などの意見が出た地域があり、実際に転入者向けに地域社協のリーフレットを配布することにした地域社協もある。 	4	<p>【 評価理由 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域社協で話し合いの場を設けることができたため。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ご近所同士がお互いを知り、「何かあったら助け合いましょう」という身近な地域の丁目活動が大切だと思います。 ○ 参加して欲しい対象者についての議論が進んでいて良いと思います。その対象者にピンポイントでアプローチしていくことは難しいため、まず活動目的を明確にした広報を検討したり、子どもを対象としたイベントで親との接点をつかむ等、きっかけやタイミングを活かしていくことも大事なことだと思います。また、子どもを対象としたイベント等に子どもたちが参加し何かしらの経験をする事は、「将来の担い手の育成」として大事なことだと思います。 ○ 「PTA」「青少協」「地域社協」の流れは、大事にしなければいけないモデルですが、地域社協ができた平成7年頃の状況と今では状況が変化しているのも事実です。少し新しい考え方を取り入れていくことは、新しい力や協力を得るためには必要なことだと思います。 ○ 今の若い人は自身が抱える問題で忙しいため、関心があっても参加できない人もいます。20年前の経済状況と異なり、「働かなければいけない若い人が多い」「70歳代でも働く人が増えている」と考えると、「地域で働く」ことを想定した形で新しい力を活用できる仕掛けの検討も必要かと思っています。 ○ 持っている資産（PTAや青少協等とのつながり）を大事にしつつ、「柔軟に、かつ、プラス面を活かしてつなぐ」という発想転換が必要かと思っています。【(6)①再掲】 ○ 既存の「つながり」「技術」等の有るものをしっかりと把握し、それらをどのように活用し、発展させていくかという視点を持って欲しい。「これはつながらないだろう」というものを、「化学変化を起こして、敢えてつないでみる」という発想の転換が鍵になると思います。【(6)①再掲】
	④ 新しいグループ・団体を立ち上げ、活動者を増やしましょう	ボランティア団体 市民社協 など	地域課題やその解決方法など、様々なテーマへの取り組みを学ぶ場や機会を設けます	<ul style="list-style-type: none"> 市民社協が地域福祉活動助成制度の見直しを行い、スタート助成区分や定着助成区分など、活動結成歴の浅い団体を対象とした助成制度に変更し、新しい取り組みに挑戦しやすい環境を整えた。 また、市内には、団体立ち上げ前に地域課題に関する講座（全3回）を開催し、テーマに関心をもった人がその後、設立準備会のメンバーとなり、団体を発足させることにつなげた団体もある。その団体の相談対応等を市民社協が行い、関心のある市民に団体を紹介している。 	3	<p>【 評価理由 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民社協は、地域福祉活動助成事業の見直しや子ども食堂等様々なテーマの学ぶ場の活動団体の支援を行ったが、市民社協の事業としては実施していないため。 <p>【 今後の進め方 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい特定のテーマの団体を立ち上げるにあたって、仲間を集める部分の支援を市民社協で行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後のステップに向けて、団体同士がいつでも交流できる場（SNSを含む）の設置を検討してみたいかでしょうか。

基本目標 2 人がつながる地域づくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価 (4・3・2・1)	評価理由、課題事項、今後の進め方等	推進委員会からの応援メッセージ（目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等）
(4) 「顔の見える関係」をつくる	① 住民同士が出会い、顔見知りになれる機会を増やしましょう	地域社協 コミュニティ協議会 ボランティア団体 市民社協 など	「防災」や「防犯」のような誰もが関心を持つテーマにより、これまで地域の活動に参加したことのない住民（転入者を含む）が参加に繋がった事例を集約し、広報紙やWEBなどで紹介します	・地域社協の中には、15棟の開発分譲住宅への転入者を対象とした「ご近所のつどい」を開催し、防災の啓発を行い、その報告を広報紙に掲載した地域社協もある。	3	【 評価理由 】 ・近隣など小さな単位での防災の取り組みを工夫し、広報している団体があったため。	○ 地域社協が「地域の関心が高い防災啓発」を行っていることはとても良いと思います。防災に関しては、「自主防災組織」とのつながりを有効に活用し、地域活動として発展させていくことが大切だと思います。【(4)③ 再掲】 ○ 身近な地域の居場所である「ひびのさんち」は、ある種の役割を果たして閉じられましたが、この遺伝子をどうつないで、違う形でどのように生み出していくかという発想を持てるかどうか重要です。 ○ 「発掘した方をいきなり地域社協につなぐ」のではなく、「そこで育てていながら連携していく」というイメージを大切にして取り組んで欲しいと思います。「旧来のやり方に無理やり引きつけていく」のではなく、「やりたい人をうまくどう育ててサポートしていくか」という発想が大切です。
	② 転入者に対する地域活動の情報提供のしくみをつくりましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	市内の地域活動をわかりやすく紹介する広報物などの作成を行います	・ボランティアセンター武蔵野（市民社協）では、ボランティアを始める人向けの「はじめてのボランティア」リーフレットや、「武蔵野ボランティアガイドブック」を作成し、公開している。	3	【 評価理由 】 ・転入者に特化したものではないが、武蔵野市でのボランティア活動に関する情報を集約した形で発行しているため。 【 今後の進め方 】 ・ボランティアだけではなく、地域活動の紹介を含めた広報物の作成を検討する。	○ 若い人を含めて新聞を取っている人は少なくなってきました。良いものを作っても読まれなければ勿体ないため、市報と一緒に配布する等の様々な方法があると思いますので、より多くの対象者に届くような配布方法を早急に検討していくと良いと思います。【(1)② 再掲】
	③ 集合住宅におけるコミュニケーションの場を増やしましょう	地域社協 集合住宅管理組合 市民社協 など	集合住宅の住民組織との関係づくりを進めます	・地域社協によっては、マンションごとの防災組織の立ち上げに取り組んでおり、近年、建設された新築マンションにも声をかけている地域社協もある。 ・URは以前から市と市民社協と連携しており、桜堤、緑町ともに、自治会やエリアの地域社協と連携して事業を行っている。	2	【 評価理由 】 ・積極的に取り組んでいる地域もあるが、十分ではないところもあるため。	○ 地域社協が、新築戸建て住宅の方へ「地域の関心の高い防災啓発」を行っている事例があります。このように、「地域の関心」に着目したり、地域他団体とのつながりを有効に活用し展開させていくことが大切だと思います。【(4)① 再掲】
(5) 人と人とがつながる「場」をつくる	① 居場所の数を増やしていきましょう	市民社協 など	居場所づくりを始めたい人の相談に乗ります	・市民社協は、居場所づくりを始めたい人の相談に応じている（令和2年度相談件数：22件）。	4	【 評価理由 】 ・市民社協が受ける相談の中には、明確に「居場所」をやりたいという相談だけではなく、その方の実施したいことを聞く中で明確になることがあり、丁寧に話を聞くことにしているため。	○ 市民社協から地域住民に「居場所づくり」を持ちかけるなど、積極的にアタックしていくことも良いのではないのでしょうか。
	② 居場所を運営する担い手を増やしていきましょう	市民社協 など	居場所の活動を周知します	・市民社協のホームページ等では、居場所を実施している団体の一覧表等は掲載している。また、年1回居場所づくりを始めたい人の学習会、交流会を開催している（令和元年度：参加者13人、令和2年度はコロナウィルスの影響により中止）。	3	【 評価理由 】 ・令和元年度は居場所づくり学習会のPRを行い、参加者に活動の周知を行ったため。	○ 令和2年度はコロナウィルスの影響により中止していますが、今後のコロナウィルスの状況を踏まえながら、ぜひ居場所づくり学習会のPRを再開して欲しいと思います。

基本目標 2 人がつながる地域づくり

取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価 (4・3・2・1)	評価理由、課題事項、今後の進め方等	推進委員会からの応援メッセージ（目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等）
(5) 人と人がつながる「場」をつくる	③ 同じ課題や関心ごとをもつ人同士がつながる「場」をつくりましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	現在の活動を多くの人に知らせ、参加を希望する方に紹介します	<ul style="list-style-type: none"> ・市内にある障害者団体や双子等を育てる家族の会、転勤族の妻の会、日本語を母国語としない子育て家庭を行う団体等、既存の団体の活動を市民社協が把握し、必要な人からの相談があれば、紹介できる状況になっている。 ・ボランティアセンター武蔵野では、福祉施設でボランティアを受け入れるボランティアコーディネーターを対象とした研修・懇談会を開催し、情報提供とつながりの場を提供している。 	4	<p>【 評価理由 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民社協で把握している団体が増えており、その団体の情報を参加を希望する人に知らせている。 ・新しい取り組みではないが、ボランティア受け入れ担当者同士のつながりの場として継続して実施しているため。 <p>【 課題事項 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加施設（ボランティア受入施設）をさらに増やしていく必要がある。 ・コロナ禍ではオンライン開催を進めたいが、施設によってオンラインへの対応状況が異なっている。 <p>【 今後の進め方 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター武蔵野運営委員会で企画検討を行う。 ・オンラインによる実施とオンライン化の支援が必要な事業所へのサポートを進める。 	<p>○ 「広報内容をしっかり作る」「紙面の広報媒体をしっかりと活用する」「掲示板は意外に見られている」等を参考に進んで欲しいと思います。【(1)② 再掲】</p> <p>○ 「YouTube」「LINEのプッシュ型」「TikTok」等の様々な広報手段を踏まえつつ、「全方位型」と「集中型」を用途に応じた組み合わせを検討してはいかがでしょうか。【(3)② 再掲】</p> <p>○ 市からの受託事業である「ファシリテーター養成講座」を活かして欲しいと思います。</p>
(6) 人や団体同士をつなげる	① 個人・団体同士の横のつながりをつくりましょう	地域社協 ボランティア団体 市民社協 など	個人や団体同士の交流の場を検討します	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は居場所づくり学習会・交流会を開催した（令和2年度は中止） ・ボランティアセンター武蔵野では、ボランティアイベント「ボラカフェ」を実施し、個人ボランティア・ボランティア団体同士の交流の場ともなっている。 	3	<p>【 評価理由 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流のみを目的とせず、ボランティアに関心を持つ人のきっかけづくりも目的としているが、ボランティア同士の交流も意識して実施しているため。 <p>【 課題事項 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの個人や団体に参加してもらえるプログラムづくりの検討が必要である。 <p>【 今後の進め方 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター武蔵野運営委員会で企画検討を進める。 	<p>○ みなさんが持っている資産（PTAや青少協等とのつながり）を大事にしつつ、「柔軟に、かつ、プラス面を活かしてつないでいく」という発想転換が必要だと思っています。【(3)③ 再掲】</p> <p>○ 既存の「つながり」「技術」等の有るものをしっかりと把握し、それらをどのように活用し、発展させていくかという視点を持って、「これはつながらないだろう」というものを、「化学変化を起こして敢えてつないでみる」という発想の転換が必要だと思っています。【(3)③ 再掲】</p>
	② 地域・関係機関同士の連携を強めましょう	地域社協 ボランティア団体 相談支援ネットワーク の関係機関 市民社協 など	関係機関との情報共有の場を検討します	<ul style="list-style-type: none"> ・市民社協の地域担当と在宅介護支援センターとは年2回の情報交換だけでなく、テーマに応じて随時情報共有を行っている。 ・福祉公社と事業連携を実施している。 ・子ども学習支援、子ども食堂については、スクールソーシャルワーカーとも情報を共有するようになった。 ・ボランティアセンター武蔵野では、福祉施設でボランティアを受け入れるボランティアコーディネーターを対象とした研修・懇談会を開催し、情報提供とつながりの場を提供している。 	3	<p>【 評価理由 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野ごとに情報共有できるようになってきているが、障害分野の関係機関との連携は十分ではないため。 ・新しい取り組みではないが、ボランティア受け入れ担当者との情報共有の場としても継続して実施しているため。 <p>【 課題事項 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加施設（ボランティア受入施設）をさらに増やしていく必要がある。 ・コロナ禍ではオンライン開催を進めたいが、施設によってオンラインへの対応状況が異なっている。 <p>【 今後の進め方 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター武蔵野運営委員会で企画検討を行う。 ・オンラインによる実施とオンライン化の支援が必要な事業所へのサポートを進める。 	<p>○ 小さな力を合わせていくためには「情報共有の交流の場」は大切ですので、今後も推進して欲しいと思います。</p>

基本目標3 たすけあいのしくみづくり

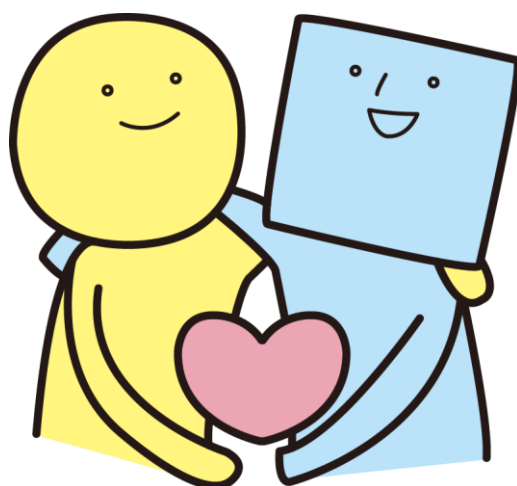
取り組み	6年間の取り組み	想定される実施主体	ステップ1	目標の達成状況や事業の実施状況の振り返り	評価(4・3・2・1)	評価理由、課題事項、今後の進め方等	推進委員会からの応援メッセージ(目標達成状況や今後の事業実施に向けたアドバイス等)
(7) 地域での孤立を防ぐ	① 住民一人ひとりが周囲の人の異変に気づき、見守りの意識をもちましょう	市民 地域社協 ボランティア団体 など	支援が必要な人(認知症高齢者、子育て世帯、障害者など)に気づくポイントや専門機関についての情報を学びます	・在宅介護・地域包括支援センターの認知症サポーター養成講座などを各地域ごとに実施され、多くの市民が受講した。	3	【 評価理由 】 ・高齢者の異変については、在宅介護・地域包括支援センターに相談する市民が増えているが、子どもの異変の発見等の相談機関について学ぶ場は十分ではないため。	○ 子育て講座、8050問題、自殺対策等の幅広い学びの場の広がりを期待しています。
	② 地域とのつながりがない人にゆるやかな関係づくりを試みましょう	地域社協 など	地域内でのつながりがなく、何らかの支援が必要となった時に助けを求めることが難しいと思われる人についての情報を地域内で共有します	・市民社協や関係機関等から相談のあったケースを地域団体内で共有している地域がある。 ・保育園の送迎のボランティアについて、福祉の役員会で検討等を行った。	2	【 評価理由 】 ・関係機関と市民社協の連携も十分ではなく、支援が必要なケースを市民社協で把握するところの件数が現状では少ないため。 【 今後の進め方 】 ・市民社協は、地域の孤立防止に向けて、つなげるべきところをしっかりとつなげ、ネットワークのベース作りを推進していく。	○ いつでも相談できる関係、相談して良いのだという認識が大事だと思いますので、サロンやカフェ等の活動も含め、顔が見え気心が知れる関係づくりに一層取り組んで欲しいと思います。 ○ 地域社協と在宅介護支援センターとの「地域ケア会議」等のつながりを上手に活用し、つながるべきネットワークとしっかりつながり、引き続き地域の孤立防止に取り組んで欲しいと思います。
(8) 地域の福祉活動・ボランティア活動を支える	① 市民社協の組織体制を強化します	市民社協 など	市民社協の事業の精査を行い、今後取り組むべき事業・活動、求められる拠点機能について検討します	・発展強化計画の策定に先立って、市民社協の全事業の「事業評価シート」を作成し、職員で共有した。 ・この事業評価シートを基に、「市民社協は何を行うところなのか」「どのような役割を果たすのか」を計画的に取り組めるように発展強化計画を策定した。	3	【 評価理由 】 ・発展強化計画の策定に先立って、市民社協内で3つのテーマ(「独自財源」「広報」「働き方改革」)を掲げ、ワーキングチームを設置し検討を重ね、発展強化計画を策定することができたため。 【 今後の進め方 】 ・事務所建替への検討に合わせて、拠点機能についても検討していく。	
	② 地域活動・ボランティア活動の拠点について検討します	市民社協 など	地域社協やボランティア団体等の活動拠点の必要性について、現状の確認と検討を行います	・ボランティアセンターでは、登録団体向けに現状の活動状況と課題に関するアンケート調査を実施し、活動拠点を含めた団体の課題解決に向けた支援策を検討している。	3	【 評価理由 】 ・拠点に特化した取り組みではないが、ボランティア団体への活動支援について検討が始まっている。	
	③ 安定した活動支援ができるよう、財源づくりをすすめます	市民社協 など	市民社協会員増強計画(仮称)について検討し、会員増強に向けた取り組みをまとめます	・発展強化計画の策定後に、3つのテーマ(「会員拡大」「自主財源」「プロモーション」)を掲げワーキングチームを設置し検討した。 ・「会員制度改革 職員による検討報告書(平成29年3月)」に基づき、「会員拡大」の方策の一つとして、会費納入方法の拡大を図るため「ゆうちょ銀行での取り扱い」もできるように検討した。 ・市庁舎ロビーを使って、会員募集の呼びかけ及び事業報告のパネル展示の他、市民社協PRチラシの全戸配布等を行い、市民社協の認知度向上を図った。 ・令和2年度に会員特典(ゴルフ練習場、教習所、飲食店の利用時の会員優待サービス)を実施した。 ・新たな地元法人への募金や募金箱の設置、会員加入の呼びかけを行った。	3	【 評価理由 】 ・会員増強に向け、様々な取り組みを行うことができたため。 【 今後の進め方 】 ・ワーキングチームでの検討結果を再確認し、取り組み不足な部分は引き続き検討していく。	

6 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会委員名簿

(任期：令和3年2月25日～令和7年3月31日まで)

◎＝委員長、○副委員長（50音順・敬称略）

	氏名	所属団体等	役職
1	宇田川 みち子	武蔵野市赤十字奉仕団	副委員長
2	大屋 朋代	吉西福祉の会 (吉祥寺西地域福祉活動推進協議会)	会計監査
3	◎ 熊田 博喜	武蔵野大学 人間科学部社会福祉学科	教授
4	小久保 渉	武蔵野市 健康福祉部地域支援課	課長
5	田中 邦忠	ボランティアセンター武蔵野運営委員会	運営委員
6	○ 千種 豊	武蔵野市民社会福祉協議会	会長
7	深田 榮一	吉祥寺西コミュニティ協議会	委員長
8	矢島 和美	武蔵野市民生児童委員協議会	代表会長



第4次武蔵野市民地域福祉活動計画
ステップ1振り返り報告書

～ 応援メッセージ ～

<令和元年度～令和2年度分>

令和3年12月発行

発行：第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会

事務局：社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会

武蔵野市吉祥寺北町一丁目9番1号

(TEL) 0422-23-0701

(FAX) 0422-23-1180

Eメール：shimin@shakyou.or.jp